
顆粒リンパ球性白血病・顆粒リンパ球増多症に
出現するリンパ球の形態と機能

<研究課題番号> 63480280

平成元年度科学研究費補助金（一般研究B）
研究成果報告書

平成 2年3月

研究代表者 押 味 和 夫
（東京女子医科大学 医学部）

平成元年度文部省科学研究費補助金

(一般研究B) 研究成果報告書

研究組織

研究代表者： 押味和夫
(東京女子医科大学医学部)

研究分担者： 高橋正知
(同上)
赤星雅
(同上)
山田修
(同上)

研究経費

昭和63年度	4,500千円
平成元年度	1,000千円
計	5,500千円

研究発表

1. 学会誌等

- (1) K. Oshimi: Granular lymphocyte proliferative disorders: Report of 12 cases and review of the literature. *Leukemia* 2(10): 617-627, 1988.
- (2) 押味和夫: 顆粒リンパ球増多症. *Medical Immunology* 15(5):531-541, 1988
- (3) K Oshimi, Y Oshimi, M Akahoshi, Y Kobayashi, H Hirai, F Takaku, M Hattori, S Asano, H Kodo, S Nishinarita, Y Iizuka, H Mizoguchi: Role of T-cell antigens in the cytolytic activities of large granular lymphocytes (LGLs) in patients with LGL lymphocytosis. *Blood* 71(2): 473-479, 1988.
- (4) K Oshimi, S Hoshino, M Takahashi, M Akahoshi, H Saito, Y Kobayashi, H Hirai, F Takaku, N Yahagi, Y Oshimi, Y Horie, H Mizoguchi: Ti(WT31)-negative, CD3-positive, large granular lymphocyte leukemia with non-specific cytotoxicity. *Blood* 71(4): 923-931, 1988.
- (5) K Oshimi, Y Shinkai, K Okumura, Y Oshimi, H Mizoguchi: Perforin gene expression in granular lymphocyte proliferative disorders. *Blood* 75(3):704-708, 1990.
- (6) S Hoshino, K Oshimi, M Tsudo, M Miyasaka, N Teramura, M Masuda, T Motoji, H Mizoguchi: Flow cytometric analysis of expression of interleukin 2 receptor β chain (p70-75) on various leukemic cells. *Blood* in press.

2. 口頭発表

- (1) 押味和夫、溝口秀昭: 抗CD3、抗CD8モノクローナル抗体による顆粒リンパ球A DCC活性の抑制. 第50回日本血液学会総会 昭和63年4月7日
- (2) 押味和夫、溝口秀昭: CD3⁺4⁻8⁻顆粒リンパ球性白血病細胞のT細胞抗原レセプター. 第30回日本臨床血液学会総会 昭和63年11月8日
- (3) 押味和夫、溝口秀昭、北村聖、高久史麿: T細胞抗原レセプター γ/δ 鎖、MH C非拘束性キラー活性を有する顆粒リンパ球性白血病. 第17回日本臨床免疫学会総会 平成元年6月1日

- (4)押味和夫、溝口秀昭、真貝洋一、奥村康：顆粒リンパ球増多症におけるperforin mRNAの発現。 第17回日本臨床免疫学会総会 平成元年6月1日
- (5)押味和夫、真貝洋一、奥村康、溝口秀昭：顆粒リンパ球性白血病におけるキラー活性とperforin mRNAレベルとの相関。 第48回日本癌学会総会 平成元年10月23日
- (6)押味和夫、溝口秀昭、原寿郎：T細胞クローンのキラー活性におけるCD3分子の抑制作用。 第31回日本臨床血液学会総会 平成元年11月9日

研究目的

末梢血でアズール顆粒を持つリンパ球 (granular lymphocyte: GL)が増えている疾患である顆粒リンパ球増多症 (granular lymphocyte proliferative disorders: GLPD)で、増加しているGLが形態学的に、機能的にどのような性状を有しているかを明らかにすることを目的とする。

本研究の成果は以下の英文総説に要約される。